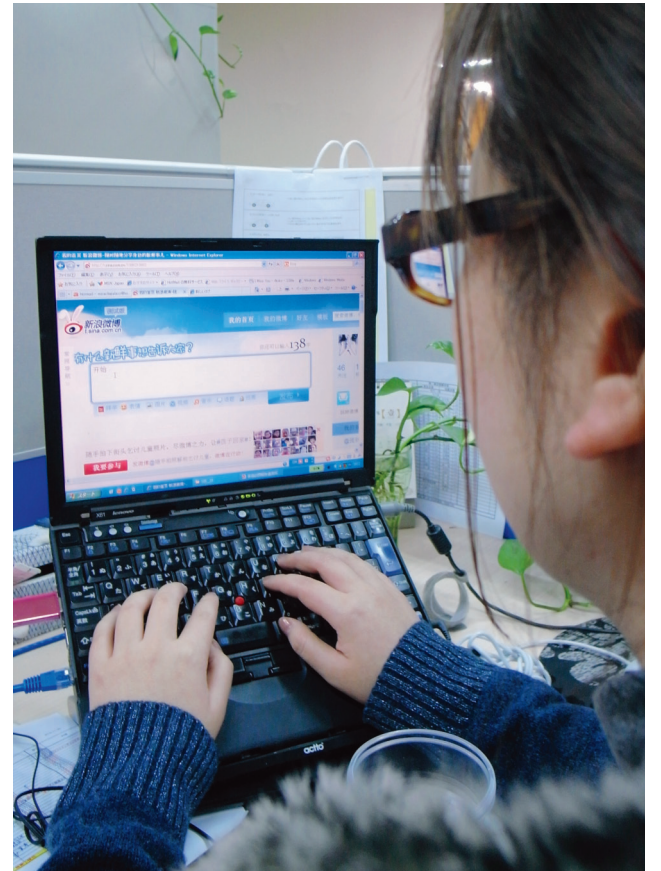


NOW

松浦良高



中国のオフィスでも中国版ツイッター「微博」は大人気

第4回 中国で2010年は何が流行ったのか？

今回は昨年2010年の中国でのトレンドを振り返ってみたいとおもいます。一体、昨年の中国では何が流行ったのでしょうか？

早速ですが、今年の旧正月は2月3日でしたが、中国では今でも旧正月を祝うため今年も2月2日から8日が1週間の休みでした。その休みの直前には一般的にどの会社でも全社員が集まる忘年会が開かれるのですが、その忘年会では必ず、みんなが楽しみにしている大抽選大会が行

われます。もちろん私の会社も実施しました。

先ず注目したいのは、その忘年会での抽選の景品です。というのも、景品に選ばれたアイテムを見るとその年の流行が分かるからです。特にみんなが気になるのは、等賞の賞品です。この一等賞の賞品が何かというのが中国人の話題になります。そこで、いろんな会社の人にもヒアリングしましたが、今年の注目の一等賞はなんと「iPad」が、抽選会が始まる前からみんな「iPad」を当てたい！と盛り上がっていました。男性社員も女性社員も、みんな欲しい。そんなに欲しい物なんだ。でも、実際にどう使うかはよく分からない人がほとんど。

ど。何にしたいから欲しい、というわけでもなく、流行しているし、こういう賞品を買えるお金持ちに見られたいから、プラス、センスのいい人に見られたいから欲しいようです。中国でも「iPad」と「iPhone4」は昨年非常に流行しましたが、経済的なステータスと、センスの良さの両方を示すアイテムとして、中国の人の気持ちにぴったりあてはまったことが流行に繋がったようです。

続いて流行したのがネット流行語。何が「in」(流行っている)で何が「out」(流行っていない)かを気にする時代になってきました。特に昨年は「イケてる！」という意味の「给力」(中国語読み「ゲイリー」という新語が大流行して、何が「给力」で、何が「不给力」(イケてない、中国語読み「ブゲイリー」)なのか、みんなが気にするようになった時代になってきた感じがします。こういったネットから生まれた用語があつという間に普及して、その言葉自体が11月10日付けの人民日報の二面見出しタイトルに使われるようにまでなったということも話題になりました。他にも、「神馬都是浮云」(もう、どうしようもないなあ。と愚痴るときに使う言葉)や、父親が警察官僚であることから交通事故を起こして「俺の父親は李剛だ」と開き直って言ったという「俺の父親は李剛だ」

も流行しましたが、すべて今の社会をよく反映している流行語になっているのが特徴です。

そういう意味では、中国でもトレンドを意識するという大きなうねりが生まれてきました。生活者サイドでの大きなうねり。そのうねりの勢いが激しくて、中国の生活者はついでいくのに必死。そんなうねりが生まれてきている背景のひとつとして、「微博」(中国語読み、ウェイボー)と呼ばれる中国版ツイッターがあります。これも昨年、大ヒットした現象の一つです。

大手ポータルサイトである新浪が運営している「新浪微博」には2010年11月時点でユーザー数が5000万人とも言われています。「新浪微博」は、本家ツイッターと似ているもの



中国での忘年会は非常に重要な会社行事。特に、抽選会がみんなの目当て

微妙に違って、転載するつばやきに追加して更に140文字書けたり、総じて中国のツイッターはたくさん書ける、印象です。また、このサイトでは基本的に中国語がメインの使用言語になるので世界に開かれているわけではないのですが、それでも中国、やはり人口が非常に多いですね。最もフォロワーの多いタレント姚晨さんは550万人ものフォロワーがいます。

最近では、「新浪微博」上では、中国女性たちから日本のサッカー代表が「みんなカッコいい」と大評判でした。特に本田選手は才能とルックスが大人気のように、その人気振りには驚きました。が、こういう話題を含めた様々な口コミが非常に活発です。また、春節のお祝いつばやきは、1秒で1.2万件もあつたようです。今では「新浪微博」が新しい流行やうねりを生みだすプラットフォームとして注目されています。先述のような流行語もここからたくさん生まれてきています。中国のライブな生声をウォッチするには、この中国のツイッターをチェックするのが本場に有効ですね。中国ビジネスに関心のある方であれば、マーケティングツールとしてもお勧めです。(中国語力が必要ですが)

トレンドを通じて感じるのは、中国はビジネス市場も激しく動いています。消費文化も非常に活発に動いているということです。総じて中国の生活者はテンションが高く、考えてばかりではなく、アクションしていく、そんなわかりやすい勢いを感じます。トレンドを見ていると、一見日本と

似たようなものが流行っているようですが、細かく見てみると結構違う。これって、日中間の本質だと思ふのです。ということで、草食系とか、内向き・おとなしさが強調されている日本とは、本当に対照的な中国社会なのですが、勢いがある社会はなかなか手ごわい。僕らも負けずに元気出していかないとですね。

◆松浦の選ぶ中国2010年5大トレンド

1. 微博(ウェイボー) <http://t.sina.com.cn>
昨年後半から周囲でも利用者が一気に拡大してきました。
 2. iPhone4 / iPad
日本よりもステータス感のあるアイテムとして定着しています。
 3. ネット流行語
「微博」の普及もあって、流行語の普及スピードが一気に速くなりました。
 4. VANCL.COM (凡客誠品)
今取り上げませんでした。WEB通販のAppleブランドが大成功。
 5. 上海万博 / 広州アジア大会
- インフラの整備がスゴイ。やはり大イベントが各都市に与えた影響は非常に大きいと実感しています。

松浦良高まつら・よしとか

博報堂研究開発局上席研究員、上海博報堂市場本部本部長。1975年生まれ。

97年学習院大卒、99年ジョージタウン大学大学院修士課程修了。2000年博報堂入社、ストラテジックプランニング局、生活総合研究所を経て現職。06年より上海在住。中国における生活者とメディア研究を行っている。主な著書に『亞洲未来図2010』(共著)、『新・中国若者マーケット』など。